

アルミニウムの歴史

1782年 フランスの科学者A. L. ラボワジェ
明礬石（ばん土、アルミナ）金属の酸化物である可能性が大きい説、アルミーヌ（Alumine）と命名

1807年 イギリスの電気化学者H. デービー
明礬石を電気化学的な方法で分離を試み、金属アルミニウムの存在を確認、アルミアム（Alumium）と命名。この後、アルミナム（Aluminum）、アルミニウム（Aluminium）と変わる

1855年 フランスの化学者H. E. SC. ドビル
化学還元法によりアルミニウム製錬を開始

1886年アメリカC. M. ホール
電解製錬法

フランス P. L. T. エルー
数か月遅れて電解製錬法を発明。

（ホール・エルー法）確立

1887年 オーストリアのK. J. バイヤー
湿式アルカリ法によるアルミナ製造法を発明。これにより、ホール・エルー法とあわせて、現在のボーキサイトからアルミニウムまでの製造法が確立

- 1934 日本でのアルミニウム製錬開始
- 1936 超々ジュラルミンを開発（日本）
- 1959 アルミサッシ登場（日本）
- 1971 オールアルミ缶登場（日本）
- 1990 オールアルミボディ車「NSX」登場（日本）
- 1996 総需要400万トン突破（日本）